

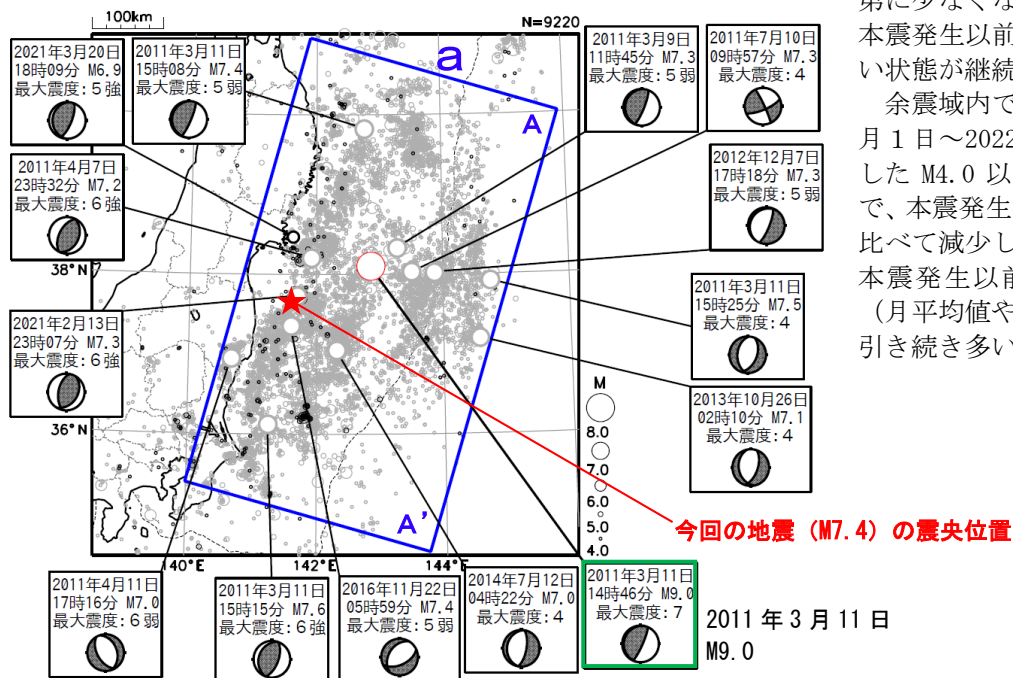
平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震の余震域内の地震活動

震央分布図

(2011 年 3 月 1 日～2022 年 2 月 28 日、深さすべて、 $M \geq 4.0$)

最近1年間(2021年3月1日～2022年2月28日)に発生した地震を濃く表示。

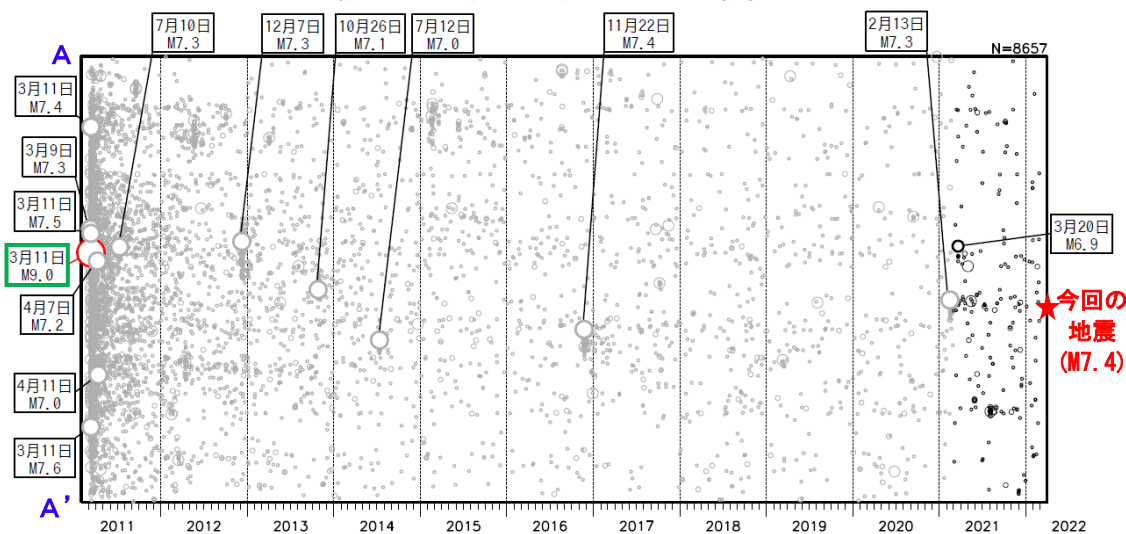
領域 a 内の M7.0 以上の地震及び最近 1 年間で最大規模の地震に吹き出しをつけた。発震機構は CMT 解。領域 a：東北地方太平洋沖地震の余震域



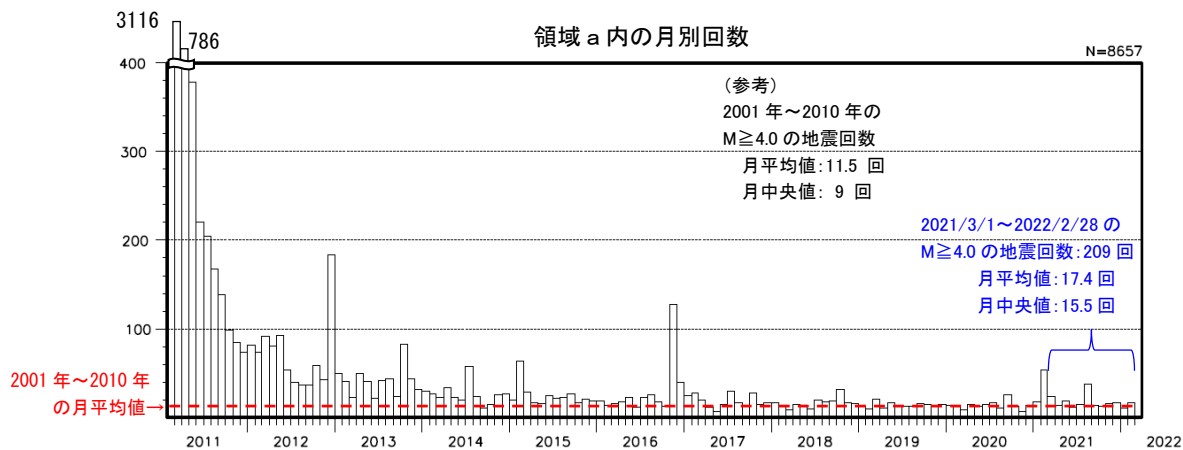
2011 年 3 月 11 日に発生した「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域内の地震回数は次第に少なくなっているものの、本震発生以前に比べて地震回数の多い状態が継続している。

余震域内で最近1年間(2021年3月1日～2022年2月28日)に発生したM4.0以上の地震回数は209回で、本震発生後1年間(5,387回)と比べて減少してきている。しかし、本震発生以前の標準的な地震回数(月平均値や月中央値)に比べると、引き続き多い状態にある。

領域 a 内の時空間分布図 (A-A' 投影)



領域 a 内の月別回数



気象庁作成

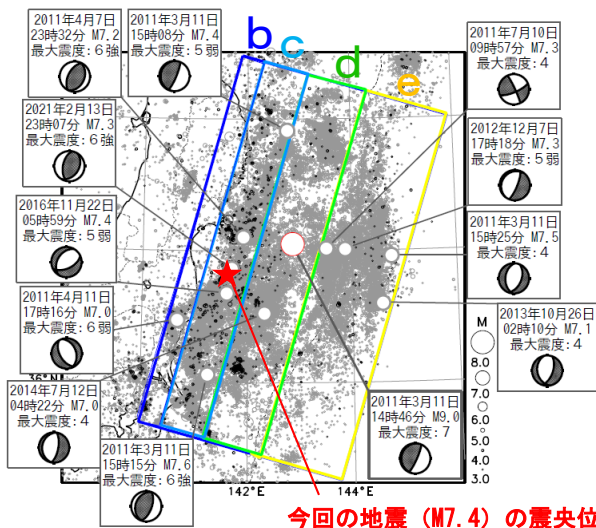
平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震の余震域内の地震活動

領域別に分けた余震域内の地震活動推移

余震域を短冊状（領域 b～e）に分けた活動の推移をみると、全体的に地震回数は少なくなってきた。東北地方太平洋沖地震発生以前（2001 年から 2010 年）の 1 年間に発生する M4.0 以上の地震の標準的な回数（年平均値や年中央値）と比較すると、沿岸部を含む領域 c と海溝軸付近及びその東側を含む領域 e では本震発生以前に比べて地震回数の多い状態が継続している。領域 d では 2021 年 8 月に茨城県沖で一時的に地震回数が多くなった。

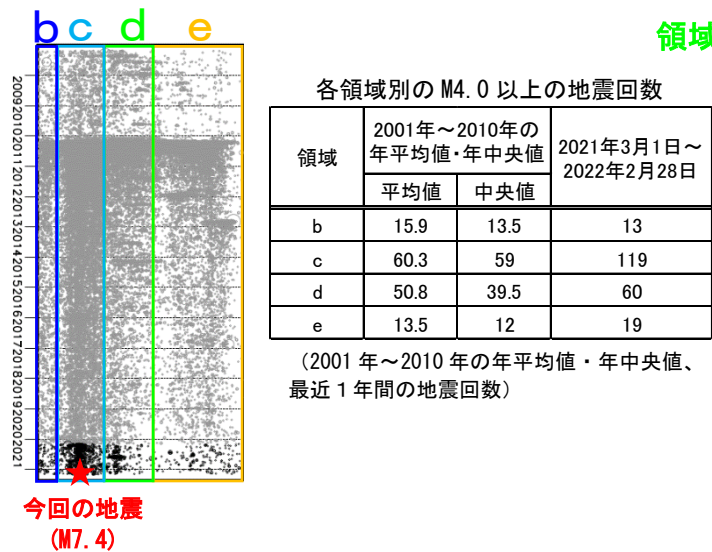
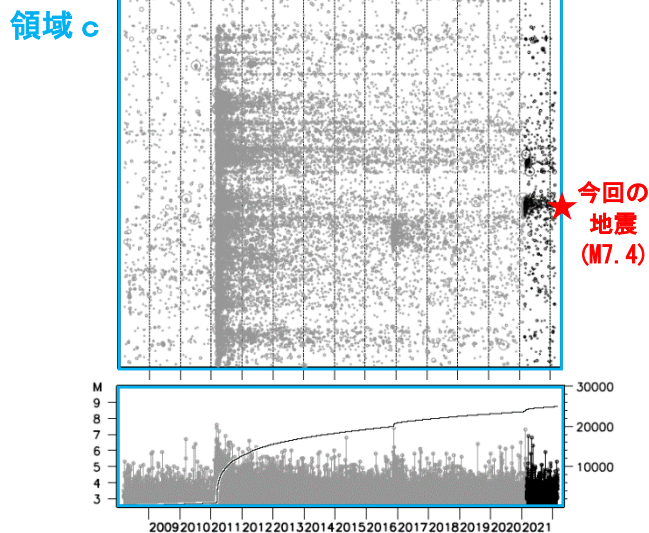
震央分布図と時空間分布図

（2008 年 3 月 11 日 14 時 46 分～2022 年 2 月 28 日）



各領域の時空間分布図とM-T図及び回数積算図

最近 1 年間（2021 年 3 月 1 日～2022 年 2 月 28 日）に発生した地震を濃く表示。



各領域別の M4.0 以上の地震回数

領域	2001 年～2010 年の 年平均値・年中央値		2021 年 3 月 1 日～ 2022 年 2 月 28 日
	平均値	中央値	
b	15.9	13.5	13
c	60.3	59	119
d	50.8	39.5	60
e	13.5	12	19

（2001 年～2010 年の年平均値・年中央値、最近 1 年間の地震回数）

